

嚥下内視鏡(VE)検査について

昨今は各メディアで誤嚥性肺炎が注目されており、当院でも患者様に口から食べる楽しみの提供や誤嚥性肺炎予防に取り組んでおります。そんな中、2019年5月より当院にて嚥下内視鏡検査を始める運びとなりました。この検査を行うことで、飲み込みに対するリスクを調べることや嚥下(飲み込み)リハビリテーションの方針が細かく検討できるようになります。詳しくは以下の通りです。

嚥下内視鏡検査とは

直径3.5mmの細い内視鏡を鼻から挿入し、喉の状態や動きを直視下で観察する検査です。実際に食べていただき、喉を食べ物顺利通过する状況を確認することや食べ物を誤嚥しやすいかなどを調べることができます。また、この医療機器は持ち運び可能なので、病室で寝たままなど普段の食事環境で検査することが可能です。



嚥下内視鏡検査の目的

飲み込みにくさを有する方や誤嚥性肺炎を繰り返される方などに対し、以下の目的で行います。

- 1 食事を開始するための判断材料のひとつにする。
- 2 食べている食事内容の適正を判断する。
- 3 吸引の必要性などを考慮する。
- 4 食事時の姿勢を検討する。
- 5 嚥下(飲み込み)リハビリテーションの方針を細かく検討する。

当院では、必要に応じて摂食機能療法を実施しております。言語聴覚士によるリハビリテーション実施時間以外に病棟看護師による摂食機能へのアプローチを実施しております。詳しくは、お気軽に職員までお問い合わせください。